

田村市で住民セミナーを開催しました

概要

目的：放射線の正しい知識を身につけるため、放射線の基礎、内部被ばくと外部被ばく、放射線の利用等について学び、測定キットを用いて外部被ばくの低減三原則を確認する。

開催日：令和2年12月16日（水）10：30～12：20

開催場所：田村市立大越中学校

参加者：田村市立大越中学校2年生 計29名

講師：松原 昌平（原子力安全研究協会） 

開催内容：講義「放射線が人体に与える影響について学ぼう」では、放射線の基礎、内部被ばくと外部被ばく、放射線の利用等を学び、また、田村市の放射線に関する取り組みについても確認した。実習「被ばくの低減三原則を確認しよう」では、外部被ばくの低減三原則「時間、距離、遮へい」について、測定キットを用いてグループごとに測定し、放射線から身を守る方法を学習した。



質疑応答

Q. たくさんの放射線を受けると病気になることがあると聞いたが、治らない病気や後遺症が残ることはあるのか。

A. 放射線を受ける量が問題である。例えば 200mSv や 300mSv の放射線を受けると人体に影響が始める。さらに 10 倍以上の放射線を受けると、細胞が死んでしまい、治らない病気になる場合もある。

Q. 鉛の板等でガンマ線やエックス線を弱めるとあるが、止めることはできないのか。

A. 物にもよるが、放射線のほとんどは分厚い鉛で止めることができる。



教員向けアンケート

- ・講義の内容では、今までの放射線学習で学んだ内容もあったが、実習を通じて、それらの知識を実感して理解できたことが良かったと思う。
- ・学年によってプログラムの内容が違って、段階的に学ぶことができ、面白いと感じた。

生徒の感想

- ・放射線について少し心配があったため、今回の授業を受けて、被ばくから身を守る方法を学ぶことができて良かった。
- ・福島県の方は放射線のせいでつらい思いをしているため、みんなに放射線の本当のことを伝えていきたい。





田村市で住民セミナーを開催しました

概要

目的：放射線の正しい知識を身につけるため、放射線の基礎、身の回りにある放射線について学び、GM サーベイメータを用いて様々なものの放射線量を測定し、放射線が身近にあることを理解する。

開催日：令和2年12月16日（水）13：30～15：20

開催場所：田村市立大越中学校

参加者：田村市立大越中学校1年生 計30名

講師：松原 昌平（原子力安全研究協会）

開催内容：講義「放射線について学ぼう」では、福島第一原子力発電所事故、放射線の基礎、身の回りにある放射線等について学び、また、田村市の放射線に関する取り組みについても確認した。実習「身近なものの放射線量を測定しよう」では、グループに分かれて、校庭の土や昆布、水等の放射線量測定、測定結果の比較を行い、身近なものからも放射線が出ていることを学習した。



質疑応答

Q 福島県内の放射線量は高くないことが分かったが、なぜ福島県産の食べ物が危ないと言われているのか。

A 福島県外の方の放射線に関する知識不足が原因と考えられる。福島県民が正しい知識を身につけ、正しい情報を発信していくことが大切である。

Q 放射線量が高い国はあるか。

A インドは地面に放射性物質が多く含まれているため、放射線量が日本の約10倍である。このような場所でもがんの発生率は変わらないことが分かっている。また、北欧にも花崗岩の岩盤からの影響で、放射線量が高い国がある。



教員向けアンケート

- ・講義と演習がバランス良く計画されており、生徒達も集中して活動に参加できていた。
- ・放射能の怖さだけでなく、仕組みや安心感を覚える内容等があり、放射線に対する漠然とした不安が払拭できるものであった。

生徒の感想

- ・放射線の単位をニュース等で聞いたことがあったが、意味は分からなかったため、参考になった。
- ・今回の授業を受け、放射線をただ怖がるのではなく、正しい知識をつけ、正しく怖がるのが大切だと分かった。原発事故後の汚染された土の処理方法やチェルノブイリ原発事故等、他国の放射線のことについても知りたい。
- ・放射線が身近にあることが知れた。あまり放射線について考えたことがなかったため、少しでも考えられて良かった。